

第 5 回 名古屋帝国大学の誕生

2015/5/19 大学文書資料室

0 はじめに一戦前の高等教育における大学—

- (a) 帝国大学令(1886(M19)年)：帝大への資金・特権一点集中政策
→①国家威信を象徴する大学、②官立主義・総合主義(大学は官立総合大学のみ)
- (b) 高等学校令(1894(M27)年)：高等中学校を高等学校へ再編(官立主義)
→大学予科の優勢と専門部の衰退→高等学校大学予科=最も威信の高い進学経路
- (c) 専門学校令(1903(M36)年)
→①「高等の学術技芸」を教授②中等学校卒を対象に修業年限3年以上、③官立以外に公立・私立も認める。
- (d) 「正系」進学経路=エリートの中のエリート
 - ①「正系」=官立高等学校(予科)→帝国大学
 - ②「傍系」=中等学校→専門学校(実業専門学校を含む)
- (e) 1920(T9)年度以降：
 - ①総合大学主義の緩和(=単科大学認可)
 - ②官立大学主義の緩和(=公立・私立大学認可)
 - ③専門学校の大学昇格認可(=官立専門学校→官立単科大学、私立専門学校→私立(総合・単科)大学)

1 名古屋帝国大学の誕生

(1) 官立名古屋医科大学

- (a) 県立愛知医科大学の官立移管(勅令第70号、1931.5.1施行)→名古屋医科大学
- (b) 人事紛争の勃発(1931)←愛知医専出身教員の処遇問題
- (c) 施設・設備の充実…附属図書館の設置、レントゲン設備、八事グラウンド

(2) 名古屋帝国大学設置運動

- (a) 愛知県(名古屋市)における総合大学設置気運の高まり
 - ◎名古屋医科大学学長田村春吉の奔走

- ◎県会意見書「総合大学建設方に関する件」（1937. 12、首相以下関係閣僚・県知事宛）
 - ◇「戦後経営」（日本・中国）の「文化の高揚」「産業の開発」に貢献する人材の養成
 - ◇名古屋…地理的な優位、「近代産業の先駆」
 - ◇「一大総合大学」の建設によって「国運の一大発展」をはかり「皇軍不朽の功績」を定着させる

◎名古屋総合大学設置期成同盟会（1938. 7）←愛知県、名古屋政財界の有力者

- ◎名古屋市会「総合大学設置に関する意見書」、1938. 2、首相以下関係閣僚・県知事宛

「…斯の如き大産業都市たる我が名古屋市が、僅に一単科大学、二専門学校を有するに過ぎず、未だ学術の殿堂たる総合大学を有せざるは誠に遺憾なりするところ…」

- ◎「名古屋帝国大学設立に関する建議案」

（愛知選出議員提案／三重・静岡・岐阜・長野県選出議員賛成）
⇒衆議院本会議で可決（1938. 3）

(b) 国との折衝の難航…理学部独立・農学部設置への難色←日中戦争（1937. 7～）

(c) 地元による全面的な支援

- …名古屋総合大学設置期成同盟会（1938. 7）、県（市部予算）からの創設費 900 万円全学寄付、各地からの敷地寄付申し出

(3) 名古屋帝国大学の誕生

(a) 名古屋帝国大学の創立（勅令第 112 号「名古屋帝国大学官制」、39. 4. 1 施行）→資料
…医学部、理工学部（42. 4. 1～理・工分離）、農学部設置をめざすも実現せず

(b) 創設期のキャンパス…鶴舞（医学部）、東山（理工学部）、西二葉（本部、理工学部）
→資金・物資不足のため突貫工事、施設・設備も不十分

(c) 開学記念式の挙行（1943. 5. 1＝創立記念日）←三学部の設置、理工学部第 1 回卒業

2 戦時下の名古屋帝国大学

(1) 戦時体制の要請による研究・教育

(a) 臨時附属医学専門部の設置（1939）…軍医の増員養成←軍部の要請

(b) 航空医学研究所の設置（1943）←医学部航空学医学二講座（1940）
…高高度飛行・急降下時の生理現象の研究

(c) 工学部航空学第六講座の増設（1944）

(d) 工学部電気工学第六講座の増設（1945）←電波兵器・通信兵器の開発

(e) 大陸・南方研究…満州・華中への医療派遣団、南方への資源調査、熱帯医学

(f) 戦時科学研究会の設置 (1943)

(g) 愛知県科学技術振興会 (1941)・財団法人航空研究所 (1943) からの研究資金

(2) 学生の戦時動員

(a) 軍事教練の強化 (←日中戦争勃発 1937.7)

- ① 軍事教練の必修化(1939)
- ② 学部にも軍事教練担当の現役将校配属(1941)
- ③ 実戦的な軍事教練の強化(1942)

(b) 勤労働員 (←国家総動員体制) …1941年～1943年(本格化)～

(3) 決戦体制下の教育措置

(a) 大学の軍隊式組織への編成

…体育会の報国会への改組 (1940)、全校編隊による報国隊の結成 (1941、勤労働員、名帝大総長=名古屋地方部長)、学徒隊の結成 (1945、本土決戦体制)

(b) 在学・修業年限の短縮 (1941年度3ヶ月、1942年度から6ヶ月)

(c) 学徒出陣 (1943年) …学生徴兵猶予措置の停止(理工科系・教員養成系学生は除外)。
→当初は名帝大生は入営延期も、45年から入営へ

(4) 空襲と疎開

(a) 防護団の編成

(b) 研究施設の疎開：研究施設疎開の遅れ←輸送手段の不足、“名古屋を逃避するな”

(c) 空襲による名帝大の被災

[参考文献] ※附属図書館の学術機関リポジトリから閲覧・ダウンロードすることができます。

◇堀田慎一郎

「企画展『医学教育の曙からノーベル賞まで—名古屋大学創立七〇周年

(創基一三八周年) 記念—』(『名古屋大学大学文書資料室紀要』第18号、2010年3月)

◇蒲生英博・堀田慎一郎

「企画展「戦争と大学—1931～1945 官立名古屋医科大学・名古屋帝国大学—」

(『名古屋大学大学文書資料室紀要』第23号、2015年3月)

◇木方十根「創設期の東山キャンパス計画：営繕顧問・内田祥三の資料を中心に」

(『名古屋大学史紀要』第6号、1998年3月)

◇木方十根「再考・創設期の東山キャンパス計画」(『名古屋大学史紀要』第12号、2004年3月)

